

西電通 スマホ対応オートロック

インターネット活用で低コスト

FBI ステップアップ

防犯システムの西電通は、マンションの集合玄関での来客確認やドアの解錠をスマートフォンでできるシステム「てれあ〜く」を発売した。通常のインターネット回線を通じて操作するため、導入コストを抑えられるのが特徴で、オートロックのない築30年以上のマンションのリノベーション需要を見込む。

システムはマンションの集合玄関に専用のインターホンを設置し、住民のスマホの電話番号と部屋番号を連動させて登録。インターホンに部屋番号を入力すると、ネット回線を経由してスマホに連絡が届く仕組み。住民は、スマホで来客者を確認し

た上で会話、拒否、解錠操作を行う。通常の通信環境であれば常に受信できるため会社や学校など外出先でも宅配便への対応ができる。固定電話の場合はマンション全体で月額700円が必要となる。

さらに高齢者の安否確認サービスもオプションで提供する。同社でマンションの出入りも管理しているため、1人暮らしの高齢者が3日間出入りしなければコールセンターから管理人に通報する。管理人がごみの収集日などの情報を住民に一斉送信することも可能だ。

導入には、ネット回線のほかにインターホン設置費用(約70万円)や集合玄関ドアの電気錠(約30万円)が必要となるだけで、マンション全体で総額約100万円からオートロックシ



ステムが導入できる。配線工事が不要のため、工事期間も短くてすむという。

同社によると、他社のシステムは室内に専用機器が必要で、

スマホによるマンション 玄関の操作画面

電話回線を使うため毎回費用が生じることがある。配線工事に費用や時間がかさむ場合も多い。今回のシステムについて、伊藤正幸社長は「システムが中心のため価格も抑えられる」とアピール。今年度末までに50件の受注を目指しているが、11月の発売以降、全国から問い合わせが100件以上にのぼるなど大きな反響を呼んでいるという。

インターホン工業会の統計によると、戸建て向けも含めたテレビ付きインターホンの出荷額は2009年度から増加し続けており、13年度は654億円。新築マンション市場ではすでに大手がシェアを独占してしまっている

ため、伊藤社長は「参入余地のあるリノベーション市場で勝負する」との方針を掲げる。ところが発売直後からデベロッパーから新築マンション向けへの引き合いや戸建て住宅への対応を求める声があるなど、需要が予想外の広がりを見せている。

近年はマンションを終の棲家にする高齢者も増えており、伊藤社長は「これまでは防犯の会社だったが、これからは高齢者の健康を守ったり、安心にもつながったりするビジネスにも進出したい」と意気込みを話していた。(伊豆丸亮)

■会社概要

- ▷本社＝大阪府中央区南久宝寺町1-4-9 FUKU BLD. 南久宝寺4階
- ▷設立＝1989年8月
- ▷資本金＝1億円
- ▷従業員＝20人
- ▷事業内容＝マンション用セキュリティシステム販売など